

家族で子育て

35 Q & A



Q

「あれがほしい」「こうしたい」と要求が多い子供に、親はどうまで認めたらよいか迷います。

親は一定の線を引きながら、子供が交渉できる余地を残すことが、教育のいい機会になります。

A

言えるのはよいこと

友達の手っているものと「同じものが欲しい」とか、「みんな持っているんだよ」とか、子供は巧みに要求してきます。2〜3人しか持っていないくても、「みんな」になるのです。

もし子供が「親はすぐだめ」という「話を聞いてくれない」と思えば、何を言っても無駄だという気になるでしょう。それが激しい反抗期につながることもあります。ゲーム機が出回り始めた頃、教師をしていた厳格な父親は、「ダメ」の一点張りです。子供から「話すらまともに聞いて

てくれなかった」と恨み言を言われ、後悔したそうです。

子供が要求できるのは、親を頼り、甘えられると思っているからです。大人には些細なことでも、子供には友達付き合いの一大事かもしれませんので、面倒がらずに聞いてほしいですね。

交渉させるよい機会に

交渉のテーブルについて話を聞いてあげれば、子供は頭をフル回転させて説得しようとするでしょう。それが親子のよいコミュニケーションになります。

結果的に子供の要求が却下された場合でも、共感的に話を聞

いてあげたことで、子供はたくさんのことを学びます。

交渉で大切なのは、親が基準をもつことです。「何でも買ってあげる」では忍耐力が育たないし、「基準がころころ変わる」のではコントロールする力が育ちません。かといって基準通りにいかないことは多々あります。子供が望む度合いや友達との付き合い、家の経済状況などから総合的に判断するのが現実的です。頭ごなしに否定したり、子供の言いなりになったりするのはなく、交渉の余地を残しておいて、子供にしっかり考えさせるようにしましょう。